

# キクラゲ生産 地域に活力 青岩建設(二戸)新たな挑戦



河北新報  
デリー東北  
(記事協力)

河北二戸ニュースセンター  
23-8253  
浄法寺中崎新聞店  
38-3021

さわくら  
沢倉印刷株式会社  
TEL 23-3107  
FAX 23-3108



温度と湿度に気を配りながら、キクラゲの生育状況を確認する小軽米文彦専務=2011年12月15日、二戸市浄法寺町



キクラゲのバック詰め作業を行う従業員。障害者3人を新たに雇用した=12月15日、二戸市似鳥



青岩建設が販売する生キクラゲと乾燥キクラゲ。コリコリとした食感が特徴で、わさびじょうゆで食べるのがお勧めだ

## 主産業・葉タバコ進む廃作 遊休施設 有効利用へ

二戸市浄法寺町の建設会社「青岩建設」(小軽米実社長)は2010年度から農業分野に参入し、キクラゲの栽培・販売に取り組んでいる。市中に回るほとんどのキクラゲが海外からの乾燥輸入品の中、あえて市場が小さい生キクラゲの通年栽培に着目。葉タバコの廃作・減作で使用しなくなった遊休施設を積極的に活用するなど、経費を抑えつつ流通拡大を図っており、同市の新たな特産品を目指し生産を続けている。公共事業削減などで地方の建設業界が低迷する中、異分野に

「生のキクラゲを食べたことか、おがくずでの菌床栽培が主流。同社も同様で、キクラゲのキノコ菌を培養した後、室温20度以上、湿度70%以上

に保ちながら、小まめに散水を行う。菌を培養してから3カ月ほどで肉厚のキクラゲを収穫できる。温度と湿度管理をしっかりと行えば比較的容易に栽培が可能だ。小軽米専務は「まだ希少品だが、生産体制を整えれば市場の拡大を十分見込める」と先を見据える。岩手県の「やるなら農業いって企業参入支援事業」を活用し、10年度から生産に取り掛かった。群馬県の業者から菌を買って、11年度には旧県立浄法寺宮農高等学校の施設(約210平方メートル)のほか、社内の敷地に建てたビニールハウス(約190平方メートル)を使って本格的に生産をスタートさせた。従業員20人中、8人がキクラゲ生産に関わり、そのうち障害者3人も新規に雇用するなど、障害者雇用にもつなげている。11年度は800キロを収穫し、生キクラゲと乾燥キクラゲを岩手、青森、秋田3県のスーパーなどに出荷。インターネット販売も手掛けており、評判は上々という。

将来的な生産拡大を目指す中で、同社が着目しているのが、葉タバコの廃作や減作に伴って使用されなくなった遊休施設の活用だ。二戸市を含む二戸地域の一大産地として栄えてきた。しかし、農家の高齢化や近年のたばこ離れにより、今後、廃作や減作が一層加速する現状にある。同社によると、葉タバコ生産に使っていた乾燥施設などを活用す

キクラゲ(木耳) キクラゲ目キクラゲ科に属するキノコの一つ。春から秋にかけて広葉樹の倒木などに発生するが、現在は原木栽培や菌床栽培などの人工栽培が主流だ。アラゲキクラゲやシロキクラゲなどの種類があり、中国、日本を中心とした東アジアで昔から食べられていた。クラゲのようなくりこりとした食感が特徴で、主に中華料理や酢の物などに使われている。日本で流通しているキクラゲのほとんどが乾燥タイプ。中国を中心とした外国からの輸入品が大半で、国産キクラゲの価値が高い。

# 新年の抱負 絆を大切に地域活性化へ



小保内敏幸二戸市長 昨年は、年初めの記録的な大雪災害、3月11日の東日本大震災、9月の台風5号の影響による大雨災害と大災害が頻発した一年となった。昨年4月からスタートした市総合計画・後期基本計画においては「地域での人のつながり」をキーワードとして、地場産業の振興や安心できる子育て環境の充実、活力ある地域づくりなどを進めることとしている。

「地域」に暮らす「人」のつながりの大切さを強く感じている。グローバル化している現代においても、やはり生活の基本は地域である。住みよい地域をつくるための「地域づくり計画」の策定や「まちづくり補助金」などによる地域活動の支援、身近な生活環境を向上させるための「市民協働道路整備事業」などにより、地域の絆を大切にしながら市民と一緒に協働のまちづくりを進めたい。

地域に根差し頑張る人を応援する「への産業チャレンジ支援事業」で成長の芽が出始めた事業を支えるとともに、施策を継続して新たな取り組みを応援していく。

限られた財源の中で、二戸の良さを伸ばし、内陸から元気を発信できるよう、地域の活性化に全力で取り組みたい。沿岸被災地への復旧復興支援でも、職員の長期派遣など可能な限り応援する。

